

高度情報化社会に欠かせない、
データベースエンジニア。
専門性があり、拡がりがあり、
企業の根幹を支える喜びがある。



Daigo Ito

学生時代はバンドを組み、レベルを立ち上げHPやフライヤーづくりなども行っていたという伊藤。「ミュージアが既にやっていることをなぞりたくない」という想いは、就職活動にも反映された。だから、コーソルのような小さな組織が最適だった。データベースエンジニアとなり、組織を率いる立場になったいまも、「もっと新しいこと、もっと上のステージ」という気概は忘れていない。

株式会社 コーソル

株式会社コーソルカナダ
代表執行役COO

伊藤 大悟

海外法人の代表になって1年
エンジニアとして、
経営者として前に進む

カナダ・トロントの地に降り立ち、もう10年。日本と連携しての業務体制の構築や人事制度の再設計、現地での採用や営業活動等、思えば、日々新しいことの連続だった。そして「代表」という立場になつてはじめて、組織を運営することの面白みと難しさを知った。試行錯誤しながらの1年でしたが、相談に乗ってくれるメンバーの存在は本当に大きかった。小さな組織だとしても、経営は1人でできるものではありません。伊藤大悟は社員たちの顔を頭に浮かべながら、実感を込めてそう語る。

コーソルの海外現地法人として2018年9月に始動したコーソルカナダには、現在、伊藤を含めて7人の社員がいる。そのうち1人は、現地で採用したカナダ人。その他は伊藤と同じように、日本からカナダに渡り駐在する出向者だ。「東京本社にはエンジニア部隊とは別に、チームとしては協調性があつて真面目な人が多いことでした。活況なIT業界の中で、データベースは縁の下力持的な存在。コーソルの社員もまた、そんな両面を併せ持った人材が多いのかもしれない。それは、コーソルの手厚い教育体制にも表れている気がします。そんなコーソルの仲間を日本にもカナダにも増やしていきたいですね。」

カナダの国旗には真っ赤な力エテの葉が描かれている。秋になれば紅葉した力エテが街を彩るようになる。入社13年目、ビジネスパートナーとしての伊藤もまた、カナダの地で色づき始めている。

トラブルに対応することで 身につく知識、サポート業務で エンジニアとしての基礎を積む

営業や管理部門がありますが、海外スタートアップではそうもいきません。エンジニアとしての業務に注力しながら、若手も中堅もみんなで試行錯誤しながら、また、日本のメンバーとも連携しながら会社全体を育てている。カナダという異国の地だからこそ、私だけでなく、メンバーの能力が養われている側面もあるはず。」

ますます拡大する高度情報化の世界 その活用に不可欠なのが データベースの存在

ICT、IoT、AI、DXなど、テクノロジーの伸張によって飛び交うキーワードもまた増えた。こうしたIT社会を大きく飛躍させる要因になっているのが、取り扱うデータ量の増加だろう。「コンピュのレジタクシ、街中の監視カメラ、そしてもちろんPCやスマホの端末、それらを使ったEシヨビク、動画シナツの閲覧など、ありとあらゆる人々の行動がデータ化され、企業のマーケティング活動に活用されている。そうした膨大なデータを活用するためのツールがデータベースだ。」

「文字、音、画像や映像といった情報はデジタル化され、データとしてストレージに格納されますが、これは図書館にたとえると「本」と「本棚」の関係になります。データベースはここでは「司書」のような役割です。大量の本を分野別、作者別に並べ替え、必要な時に必要なものを採って取り出す。コーソルはデータベースの中でも特に「Oracle Database」という製品に力を入れたエンジニア集団です」と伊藤は説明する。

世界の法人向けソフトウェア市場で圧倒的なシェアを持つ「データベース」は、日本国内でも大手企業や官公庁をはじめ、それこそ数え切れないほどのシステムに組み込まれている。コーソルが主に担当するのは「Oracle Database」の導入やその後の管理・運用を行う業務（コンサルテイング&サービ）と、トラブル時に遠隔でサポートする業務（サポートサービ）だ。後者のサポートは24時間で稼働しており、日本の深夜帯をカバーするために生まれたのが、伊藤が代表を務めるコーソルカナダというわけだ。

コーソルの名前を売り、 大きく育てたい それが入社以来変わらない想い

今後、伊藤はここカナダでサポート以外のファンクションも拡充していくつもりだと語る。たとえば、日本のコンサルテイング&サービの応援。たとえばソフトウェアの販売。たとえば、さらなる現地化。

「つねに次のステージを目指して、次のビジネスをつくりたいと思っています。これまでもそうしてきたつもりだし、そういう姿をメンバーにも見せていきたい。正直、エンジニア職への興味以上に、コーソルを大きくしたいという想いで入社しましたから。」

ユニークさと真面目さを併せ持つ そんな仲間を、日本にもカナダにも 増やしたい

若手時代にサポート業務でデータベースエンジニアの土台を築いた後、伊藤はプロジェクトごとに顧客先に常駐する時期を長く過ごした。コーソルの看板を背負って、顧客よりも顧客のシステムを知り尽くし、データベースの導入や運用のために動き回る。私はそうした現場に切り込み隊長として送り込まれることが多かったんです。だから、その場で即断即決し、プロジェクトを前進させる責任もありました。お客様のビジネスを支え、前進させていく責任は大きかったです。悩んだ時や迷った時はいったん会社に持ち帰り、社内のメンバーに相談していました。社内に戻れば知見を持った人が多くいる、というのは心強かったですね。いくつものプロジェクトに参画しましたが、新しい人や新しい技術との出会いによって、その度にエンジニアとして成長できた気がします。でも、一番はコーソルの名前を売ってやる！という使命感。それがいつも私のエネルギー源でした。」

就職活動をしていた時、合同説明会で最も目立っていたのがコーソルのブースだったと伊藤は語る。「学生に対して1対1で自分の会社について熱く語ってくれたんです。ユニークな形式だな、と思いましたが、すでに完成された組織ではない、これから躍進していく勢いを感じました」。バンドを組み、ミュージシャンとして活躍したいという夢を断ち切り、一念発起して就活に励んでいた伊藤はコーソルに心を掴まれた。「入社して感じたのは、各社員は個性的で、ヒットなの



Company Information

IT社会を支えるプロフェッショナルチーム

ビジネス向けデータベースの中で最も世界的シェアが高い「Oracle Database」に強みを持ち、「IT」×「サービス」を軸に事業展開している会社です。世界共通の認定資格であるデータベース資格の最高峰、「ORACLE MASTER Platinum」の取得者数は国内NO.1を誇るなど技術力とサービスオリティの高さには定評があり、多くのお客様から技術支援のご依頼をいただいています。また、2015年からは仮想化製品事業にも事業範囲を拡げ、企業のシステム基盤を支えるパートナーとして、IT社会に役立つサービスを提供し続けています。一方、厚生労働省主催の「イクメン企業アワード2019 両立支援部門」ではグランプリを受賞するなど、多様な社員一人ひとりが安心して中長期的なキャリアを築いていけるような取り組みも積極的にを行っています。今後もIT社会を支えるプロフェッショナルチームとしてお客様の抱える問題・課題を「共に解決(CO-Solutions)」していきます。

会社概要

社名/株式会社コーソル 英文社名/CO-Sol Inc.
創業/2004年4月1日 資本金/2,000万円(2020年9月11日現在)
代表者/金山 俊明 本社所在地/〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7-4 秩父屋ビル6階

